

愛知県臨床検査技師会 精度管理結果報告会
2018年3月17日@名古屋第一赤十字病院

平成29年度愛知県臨床検査技師会

微生物部門精度管理結果報告

微生物部門精度管理担当

原祐樹、河内誠、美濃島慎、蔵前仁

今年はフオト設問を1問増やした

参加施設数

60施設(前年比-2施設)

設問数

菌株問題 2問 (同定感受性検査)

フオト設問 3問

昨年度からの変更点

感染症法コメントの**評価を実施**

昨年度まで

入力**は必須で、評価は実施せず**

(当初は実施予定だったが、最終的には未評価)

今年度

入力**は必須で、評価を実施**

感染症法把握も**精度管理の一環**

感染症法届出疾患を見逃し

公衆衛生、院内感染上の問題

届出不要な疾患を誤って届出

施設の検査精度が問われる



感染症法の把握も微生物検査室の重要な業務

精度管理調査の評価について

菌名同定・フォト設問

菌種名まで一致していること

(一部、属名でも正解となるケースあり)

感受性検査

①MIC値とカテゴリーが一致

(耐性菌、内因性耐性での変換は除く)

②最多回答の1管差以内に入るか

菌株問題の成績

菌株1: *Shigella sonnei* (赤痢菌)

	A	B	C	D
同定検査				
菌名	98.3%	-	-	1.7%
感受性検査*				
ABPC	98.3%	-	1.7%	-
CTRX	94.4%	5.6%	-	-
LVFX	98.3%	-	-	1.7%

* 微量液体希釈法、ディスク法およびE-test法を合算して算出

Shigella sonnei 出題の意図

質量分析装置では、大腸菌と鑑別不能
一部の大腸菌とコロニーが非常に類似



近年、検出数が減少しており、**赤痢菌を
見たことがない若手微生物検査技師も多い**
質量分析に頼っていると見逃す可能性あり

菌株問題の成績

菌株2: *Klebsiella oxytoca*

	A	B	C	D
同定検査				
菌名	100%	-	-	-
感受性検査*				
IPM	100%	-	-	-
MEPM	85.0%	15.0%	-	-
CMZ	100%	-	-	-

* 微量液体希釈法、ディスク法を合算して算出

Klebsiella oxytoca 出題の意図

生化学性状が類似する腸内細菌科細菌と
鑑別が正確になされているか

カルバペネマーゼを検出できるか



正確な菌種同定と耐性機序の検出を要求

カルバペネマーゼ産生菌とは？

世界的に問題視されている耐性菌の1つ

日本においても院内感染の報告がある



カルバペネマーゼ産生菌を検出できるか
否かは院内感染対策上非常に重要であり、
微生物検査室の技術力のベンチマークに

カルバペネマーゼを見逃した施設も

今年度の設問

カルバペネマーゼ産生 *K. oxytoca*

(遺伝子検査でカルバペネマーゼ遺伝子保有を確認済み)

判定

回答施設数(%)

カルバペネマーゼ陽性

55施設(93.2%)

カルバペネマーゼ陰性

4施設(6.8%)

* 回答に記載がなかった1施設はこの集計には含めず

検出方法、検査対象をどのようにしているかは

各施設で再度、確認をお願いします

フォト設問は非常に良好な成績

フォト1: *Clostridium tetani* (破傷風菌)

フォト2: *Mycoplasma hominis*

フォト3: *Rhizopus* spp.

	A	B	C	D
フォト1	100%	-	-	-
フォト2	100%	-	-	-
フォト3	100%	-	-	-

今年度のフォト設問の意図

昨年度との違い

設問を **1つ増やし**、**難易度を高め**に設定
(成書に詳述があり、調べればわかるものを選定)



日常検査で**遭遇する機会**は少ないが、

臨床的に重要な病原体を出題対象とした



当該病原体について学ぶ機会を提供したい

今年度のフォト設問が活きた例

ある施設における症例

精度管理の結果回答後、
フォト設問に極めて類似する症例に遭遇



フォト設問で写真を見ており、

菌について成書で調べていたことから

スムーズに結果報告をすることができた

感染症法コメントも良好な成績

感染症法コメント評価集計

	A	B	C	D	対象外
菌株1	98.7%	-	-	-	1.7%
菌株2	98.7%	-	-	-	1.7%
フォト1	95.0%	-	-	-	5.0%
フォト2	98.7%	-	-	1.7%	-
フォト3	100%	-	-	-	-

本日のまとめ

菌株問題、フォト設問ともに優秀な成績
(日臨技が要求する正解率を全問クリア)

カルバペネマーゼについては一部施設が見逃していた

感染症法コメントについても
ほぼ全ての施設が回答し良好な成績だった

自施設の技術と知識向上のため

微生物研究班の研究会等に
どんどん来てください

(管理者の方はどんどん参加を促してください)

そして何でもご相談ください

班員一同、お待ちしております